

深刻なワーキングプア

余 塵

いつの時代も若者は社会の中でつらい思いをするものだが、最近の取り巻く環境は深刻だ▼子ども・若者白書によると、15歳から24歳(在学中

除く)の中で正規の職員・従業員でない非正規雇用の割合は32.3%(2011年)を占めた。都会だけでなく地域でも若者の非正規雇用が増えている。働いても現在の生活や将来設計に不安を持つワーキングプア層の拡大は少子高齢化の時代を背景に将来の地域、社会不安へと広がっていく▼高度成長期の恩恵を受けた中高年の労働者も若い時の賃金は低かった。しかし、「結婚できない」とまでは思わなかった。家庭を持つことをためらわせる賃金構造は国そのものを危うくする。

さらに低所得者対策や子育て支援の配慮に欠けた消費税増税も生活を締め付ける▼頑張つて子育てをしている家庭に支援を傾注すべきだ。子どもや若者が将来に希望を持って苦難に立ち向かえる社会こそ高齢者にとつても有意義だろう。地元経済研修団体の釧路あすなろクラブが50年後の釧路構想で、郊外に広い一戸建てを持つ高齢者は中心部に移つてもらい、若い家族に住まわせるという構想を発表した。こつこつ大胆な発想が必要かもしれない▼昨年11月、米国で若者を中心にした反格差デモが拡大した。日本の若者も気持ちは同じだろう。(郷 裕策)